

競走馬がのびやかに過ごす牧場へ

# ホースファーム・カトーの暮らし

巻頭特集

市内北東部、おがせ池から関市へ抜ける街道沿いに、牧場があるのをご存知でしょうか？知る人ぞ知るこの牧場、実は引退した競走馬たちが乗馬として余生を楽しんでいる場所でした。牧場を営む加藤さんご夫妻に、馬と暮らす魅力をお聞きします。



1



2

## 人々に感動を与えた競走馬が第2の人生を歩む場所

青空に新緑が映える山々、緑に包まれたすがすがしい空気、春の陽射しの中で、のんびり日なたぼっこする馬たち。牧歌的な風景が広がる「ホースファーム・カトー」は、今から10年ほど前に誕生しました。牧場を営むのは、各務原出身の加藤敏勝さん・タエさん夫妻。愛知県にある競走馬の牧場でともに働いた後、地元に戻って「から手造りの牧場をオープンさせました。もともと



3

1.オーナーの加藤敏勝さんは馬術部に所属した大学時代から、タエさんは高校時代から乗馬を開始。今でも夫婦の楽しみとして競技会に参加しているそう。2.均整のとれた美しい体格が特徴のシルクハリスタイプの座騎。タエさんによれば「人間大好き」なんだとか。3.杭打ちや運動場の整備など、ほぼ夫婦2人で手造りした牧場



馬の世話には多額の飼育費が必要となり、引退後に寿命を全うできる競走馬はほんのひと握り。そんな中、彼らが加藤さん夫妻と巡り会えたのは、「縁があったから」とタエさんは話します。「二頭の馬には、馬主、調教師、騎手、厩務員、そして多くのファンと、想像以上にたくさんの方が関わっています。競走馬としての役目を終えても、思い入れが深い馬の場合は、「余生を送らせてあげたい」とこへ預けられます。人々に愛された馬を引き取り、乗馬馬として大切に育てていくことが私たちの仕事なんです」。

## 馬たちがもたらしたのは、人との出会いが生む喜び

わせないながらも、どこか穏やかな印象です。「勝負というストレスの中で生きてきた競走馬に、まずはゆっくり落ち着ける環境を整えてあげることを最優先にしています。「もう引退したんだから、慌てたり、イライラしなくてもいいんだよ」という気持ちで、たっぷりコミュニケーションを取って可愛がってあげられます。そうやって馬をなでる「夫妻の表情は、まるでわが子に接する両親のよう。一頭一頭を家族のように愛する理由を尋ねると、「人との出会いを結びつけてくれたから」と話します。例えばトワシヤトルのかつての騎手だった宮下瞳さんとは、家族ぐるみで10年来の付き合い。タエさんと瞳さんは大親友だそう。「馬たちがたくさんのお会いや喜びを運んできて、人生を豊かにしてくれました。人とのつながりを大切にしてい

## 乗馬の奥深い醍醐味は自分が成長できること

「乗馬は自分探し、自分磨きにうつってけなんです。そう笑顔で話すタエさんは乗馬歴17年、敏勝さんは24年という経歴の持ち主。数々の競技会や全国大会へ出場した腕前を生かし、マンツーマンの乗馬レッスンをしています。モットーは、コツコツ丁寧に。通り一遍の教え方ではなく、一人ひとり、一頭一頭の個性をきちんと把握し、確実に

なスキルアップにこだわります。弱点を克服する度に自分に自信がつくのはもちろん、馬との触れ合いで得られるものが、もう一つあるのだとか。「馬は話すことができないので、その分表現が正直なんです。馬にどう接して、どう扱うかで、その人の性格が分かるものなんです。人が先導するばかりではなく、時には馬の気持ちを尊重しながら、お互いが楽しめる関係を築いていく。そうするうちに、自分の感情をコントロールするのが上手になっていくんですよね」

かつて、颯爽とトリスを駆け抜け、熱狂と感動をもたらしてきた競走馬たち。活躍する舞台は変わっても、今なお人々に色とりどりのドラマを与え続けていました。

馬たちがたくさんのお会いや喜びを運んできて、人生を豊かにしてくれました。



かつての競走馬が暮らす厩舎。馬たちは手を触れても大人しく、落ちた塵が心を癒してくれます



(上)マルカセンリョウと(下)トワシヤトル。事前に連絡すれば、馬の見学だけでも可能です



丁寧に手入れをする敏勝さん。「人間と同じように、一頭一頭の性格が違っておもしろいですよ」



3頭の愛しいボニーは、各務原市のイベントなどに出演することも。子供の乗馬レッスンでも大活躍

**Information**

ホースファーム・カトー  
各務原市須衛稲田2424  
090-8957-3272  
見学時間12:00~17:00(2日前までに要予約)

**★乗馬メンバー入会情報★**

月会費10,000円	騎乗1回につき約3,000円
------------	----------------

※体験レッスンや見学も可能。詳細は問い合わせを